

隊「お互い様」 富有柿届け 被災地支援

東日本大震災の被災者を支援しようと、本州市内の企業経営者や農家十二人でつくる「お互い様隊」が十四日から二泊三日で、宮城県を訪れ、特産の富有柿や米を届ける。訪問は昨秋に次いで二度目となる。

(佐久間博康)

届けるのは富有柿五トンと米四トン。地元生産者でつくる糸貫柿振興会や、農家の隊員から提供を受けた。石巻市、女川町内の仮設住宅三十五カ所を訪ね、被災者に贈る。

支援は、隊長の株式会社雅巳さん(この父で市議の規之さん)が昨年五月に石巻市を視察したのがきっかけ。水産加工会社を営む男性から食料不足の悩みを聞き、雅巳さんに伝えた。

以来、雅巳さんは知人らと支度を繰り返し、毎月、男性を通じて仮設住宅に米や野菜を送ってきた。昨年十一月

きょう 宮城の仮設住宅へ出発



富有柿をトラックに積み込むお互い様隊の隊員たち。本州市見延の「Aさふ糸貫支店」前で

昨年に続き米4トンも贈る

には、お互い様隊を結成、富有柿を届けた。今年も「できるだけ多くの人を支援したい」と現地に向かうことと決めた。十二日は本州市見延の「Aさふ糸貫支店」で先着三千人に配る。

Aさふ糸貫支店前で、隊員八人で富有柿と米を四トントラック二台に積み込んだ。雅巳さんは「困った時は「お互いさま」と思っている。富有柿と米で元気になるってもらいたい」と話す。